

西小倉めぐみ教会通信

発行者 日本キリスト教団 西小倉めぐみ教会
〒611-0042 京都府宇治市小倉町西浦33-36
Tel&FAX 0774-20-3071 <http://www.n-megumi.com/>

「福島へ行って」

牧師 倉橋 剛

聖名を崇めます。教会通信を出すたびに私たちの小さな教会が、温かい信仰の友とまた全国の教会からのお祈りや尊いご献金により支えられ励まされていることを改めて感じ、心より感謝しております。

人間の記憶というのは何といい加減なものか、また持っている感性が鈍ってしまうその速さは何と早いのでしょうか。自分自身を顧みると、昨年3月11日に甚大な被害をもたらした東日本大震災が起こった直後には、これだけ離れた所にいる者であってもあの何とも表現しがたい惨状に言葉を失い、けれど必死で心の思いを被災地の方に向けていた自分がいました。でも、本当に本当に申し訳ない以外にないのですが、その現場に立っていない私たちは、時間がたつにつれ日々の生活にも追われ段々と心の距離が空いてしまっているなどの危機感に捕らわれていました。身体的に精神的に病を抱えた小さな私が、本当に何か出来るなどとはとてもないけれども思いませんでした、どうしても今からでもとにかく現地(といってもほんのごく一部ですが)へ、という思いは増すばかりでした。

今回、以前より親しくさせていただいている福島牧師さんの全面的なサポートがあってのことですが、福島訪問が実現しました。反対に多くの方々に支えられての日々でした。けれどたった8日間でしたがそこで与えられたものは大きいものがありました。

最初の夜、まず感じたことは夜が早く暗くなることです。季節のせいではない、空き家が多く生活の光が少なくなってしまったからです。これは場所によって全く違うかも知れません。私はその教会の附属保育園の建物で宿泊させていただきました。原発から30kmは越えているもののこどもたちを放射能からいかに守るか、

ということに心砕いておられました。園庭で大好きな砂遊びが出来ない子ども達のために、滋賀県から川砂を運び、保育室に砂場を作って遊んでいました。そしてまだ未完成でしたが、ロータリークラブの好意で青竹を運び入れ、室内にジャングルジムを作る計画があることも聞きました。また、ちょうど行ったときは、運動会を園庭でするか室内でするかが職員会議で真剣に協議されていました。幼い子はすぐに手を口に持って行ってしまうので内部被曝を避けたいという保護者の声もあるのでしょうか。また、実際に当日の話を聞く機会も与えられ、ある方はその日入院中で点滴を2本していたときに地震が来て、約3分間も長く揺れ続け、ベットがどんどん移動しもちろん点滴どころではなかったのですが、その方が「よく防災訓練の時、学校でも子ども達に机の下に潜って!というが、肝心な一言が抜けている。とにかく机の脚を両手でしっかり握りしめておかないと何もならない、机だけが移動するから」といわれたことは印象的でした。また、「津波から必死で車で逃げる際、大渋滞で。結局自分たちは地元の人しか知らない裏道を縫ってようやく命拾いしたんだけど…」とのこと。渋滞の中で動けなかった人たちの事を思うとほんとに重たいものを抱えておられるんだろうなあ、と心痛みました。

私はしみじみと「現場に居る、あるいは、現場と近いところにいる」ことと、「遠く離れている所で生きている」ことの隔たり、どうにもならない現実を見せつけられました。それはどうしようもない事実です。しかし、たとえ、その同じ立ち位置に立つことが出来なくても、それでもその辛さ、悲しさ、苦しさを心に覚えること、小さなことでも出来る事を見つけ出していく

(次ページへ続く)

こと、離れていても、その現場で精一杯生きておられる方々の声を傾聴すること、そして祈りを合わせることは出来るのではないでしょう

か。
福島をほんの少し訪ね、改めて、私たちの小さな教会の使命を思いました。教会員の約8割は精神疾患を抱えている方やしょうがいを持つ家族を支えておられる方々です。また、ひきこもりで苦しい日々を送っている若者たち。私

たちの教会の現場はここなんだなあ。たとえ小さい力であっても、神さまの力に押し出されて、日々、弱い立場の方々と共に歩む者、また、教会でありたいと心から願っています。被災地の様々な課題と、そして辛い中におられるお一人お一人の上に神さまの励ましと豊かなお恵みがありますよう心よりお祈り致します。

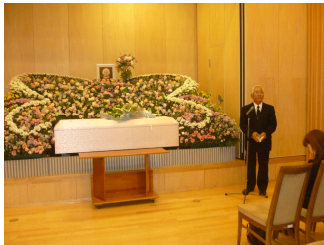
在主

2012年後半・教会のあゆみ

＜8・15学習会＞ 2012年8月19日

DVD「チェルノブイリ・ハート」を観る会をしました。

1986年4月に旧ソ連（現ウクライナ）で発生したチェルノブイリ原子力発電所の事故。年数が経っても、新生児の多くが何らかの心臓の疾患をもっている現実を学びました。私たちの住むこの国も現実味をもって迫ってくるものがありました。



＜多芸カヅエさん 91歳で召天＞ 2012年10月4日

当教会員で、多芸正之前牧師の母である多芸カヅエさんが召天しました。幼少時から家庭の事情で苦労され、戦前、戦後と美容師として生き抜かれ、熟年期以降は神様と出会い豊かな信仰生活を送られました。

10月5日に前夜式、6日に告別式が行われ、その日のうちに城陽霊園にある当教会の墓地に納骨されました。神様のみ元での魂の平安をお祈りいたします。

＜教会員の一言＞ 私が幼い頃、亡き祖母がカヅエさんの美容院へ通っていて、私もよく美容院へ祖母を呼びに行ったもので、その時、テキパキとお弟子さんたちと共に仕事しておられる様子を見ていました。そのセンスの良さ、きれいにしておられるのを見て、幼いながら憧れのような気持ちでした。その後、多芸牧師を通じ、もっと近く接するようになり、私たち夫婦の結婚式のドレスや着物の着付けをしていただき、私たちの子どもたちにもよくお年玉をいただきました。教会を新しく作り直す際、仮の部屋を礼拝堂にしている場所にも、お孫さんを背中に背負って来られていました。その後、教会で共に毎週礼拝を守られるようになり、昼食時のあしゃべりも楽しいものでした。おしゃれで素敵なカヅエさん。たくさん本当にありがとうございました。そして本当にご苦労様でした。ありがとう！（田中千栄）



＜しょうがい者週間を覚えての礼拝＞ 2012年11月11日

本年度のこの礼拝では、当教会員の団野明日香さんによる「たといわたしは、死の陰の谷を歩むとも」と題した証しを聴きました。摂食障害と向き合いながらのこれまでの半生、学生生活や、お連れ合いとの出会い、様々な試練など、この紙面では表しきれない魂の言葉が語られました。明日香さんへの神様の導きと恵みの一端を共有したひとときでした。

＜わたぼうし音楽祭に行ってきました＞



今年で37回を数える「わたぼうし音楽祭」。何らかのしょうがいのある人たちが作った楽曲を発表する場として、奈良で開催されています。今年は7月29日(日)午後には奈良県文化会館で開かれました。

今回は、当教会員の団野利男さんが作詩・作曲した「COMING OUT」が、作詩・作曲の部で272作品の中から8曲の入選作の1つに選ばれました。利男さんは、作詩の部で入選した第34



回に続き(当通信8号で既報)、2回目の入選。お連れ合いの明日香さんも第33回・第35回で2回の入選を果たしており、度重なる快挙です。

ステージでは娘の華保さんも含め一家3人でインタビューに答え、楽曲を披露しました。入選した8曲は力作ぞろい、しょうがいの有無を超えて音楽として心に響くものがありました。入選作のうち作詩・作曲とも同じ人がしたのは、大賞作と団野さんの作品の2作品のみでした。光っていました。

「COMING OUT」

作詩・作曲:団野利男

「お前は暗い」と言われ続けて 過ごした子どもの頃
無理にはしゃいでは疲れ果てて そして大人になった
初めて病気と知らされた時 自分が鬱だと知らされた時
許されたような気持ちになった もう演じずに生きればいいと

COMING OUT 聞いてください そのままの僕の小さな悲鳴を 愛してます
COMING OUT 愛されたくって 僕は 自分のペースで生きていきます

病院に通い 薬をもらって しんどい時にはそれに頼った
肩の力が抜けるように 楽になったのを覚えてる
それでも時には眠れなくなって 頓服を飲んで布団にくるまった
バリバリ働いてた頃に 時には帰りたくもなかった

COMING OUT 聞いてください 君に愛されたくて 本当の僕を
COMING OUT もう彷徨うこともない 君だけを愛し続けるこれから

ただ弱いただけなのに 気が小さいだけなのに 真面目すぎるだけなのに
少し休んだだけなのに 世渡り下手なだけなのに 薬を飲めば大丈夫なのに

COMING OUT 聞いてください そのままの僕の小さな悲鳴を 愛してます
COMING OUT 愛されたくって 僕は 自分のペースで生きてゆきます
COMING OUT 聞いてください 君に愛されたくて 本当の僕を
COMING OUT もう彷徨うこともない 君だけを愛し続けるこれから

「わたぼうし音楽祭」「COMING OUT」についての

お問い合わせは以下まで

〒600-8044 奈良市六条西3-25-4

奈良たんぼぼの会 TEL:0742-43-7055

「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を賛美いたします。

西小倉めぐみ教会は、1981年の創立以来、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいをもつ人たち、とりわけ精神しょうがい者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。2005年から倉橋剛牧師を迎えた後も、その基本姿勢に変わりはありません。

不登校・ひきこもりがちな青少年の居場所「おやすみ」や、年齢制限のない居場所「のんびり」、地域の方々と歌を通じて交流する「歌ごえ」など、ささやかながらそのような基本姿勢のもとに取り組んでいるものです。

同教会では、教会に集う人たちが自身が精神しょうがい者であったり、その家族に精神しょうがい者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があるところです。

そのため、倉橋牧師の謝儀に対し、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂き、さらに全国の皆様から「西小倉めぐみ教会を支える会」に献金をいただき、なんとか牧師家族の生活を支えてきました。同時に、教会の支出の見直しを重ねるとともに、牧師家族には様々な面で生活を切り詰めていただく等の努力をしていただいております。一方で、教区の財政状況も厳しく、現行の宣教連帯の制度も見直しが検討されているところです。

そんな厳しい状況にあっても、小さく弱い群だからこそこの教会が神様から与えられた使命を果たし続けるため、現在進めている宗教法人化の手続きを通じて教会の基盤を強化すると共に、同教会の社会的はたらきをより広く知ってもらうための発信を続けたいと思います。

そのようなこの教会のはたらきと、厳しい経済的事情にどうかご理解をいただき、「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援をいただきたくお願い申し上げます。

2012年 12月

西小倉めぐみ教会を支える会 代表 山下茂雄（醍醐教会牧師）

今までに御献金いただいた方のお名前（敬称略・順不同） 2012.6.18～2012.12.23現在

鴨東教会 山下茂雄 君村千代子 佐藤嘉子 岩城宏司 難波 巧 福井達雨 森川通乃
長岡京教会 洛南教会 経堂北教会 広瀬規代志 竹内富久恵 辻 建 埼玉新生教会
久が原教会 千歳教会 妹尾健弘 箕面教会 葛西佳子 李清美・棚谷直巳 亀戸教会
今井牧夫 高幡教会 琴浦教会 近藤英子 目白町教会 片山厚子 光明園家族教会
田中 晁・千栄 西本 愛 小曽根一枝 杉本節子 橋本 博 門戸幸子 岩城澄子
倉橋 剛・容子 (78件 計1,382,760円)

支える会の会計が大変逼迫しています。引き続きご支援をよろしくお願いいたします

振り込み口座番号(ゆうちょ)・・・00970-2-79224 (加入者名 西小倉めぐみ教会を支える会)

●教会のホームページをご覧ください！！

西小倉めぐみ教会のホームページが出来ています。まだまだ内容はこれからですが、これから充実させていく予定です。教会通信の1号から14号までも掲載しています。是非一度ご覧ください。アドレスはwww.n-megumi.comです。

また、不登校やひきこもりがちな子ども達、若者達のフリースペース『おやすみ』のホームページもあります。アドレスはoyasumi.infoです。こちらの方も併せてよろしくお願いします。